シンポジウム開催のお知らせ＝マスコミ九条の会

深まるメディア不信をどう克服するか－

ジャーナリズムの現場を根底から見直す－

日　時：２０１０年7月３１日（土）１３時３０分～１８時 会　場：岩波セミナールーム・岩波ブックセンター３階

開場１３時～閉会１８時 参加費：１０００円（学生５００円）

◇政権交代望んだ民意裏切る政治とメディアの責任を問う

鳩山首相辞任も含む「普天間問題」の報道・論評は、このままでいいものだろうか。　アメリカの顔色だけを気にするメディアの姿勢はすでに多くの市民の不信を深めている。これでは、民意が実現した政権交代の意義も、 空に帰してしまう。　現場のジャーナリストと市民運動に携わる読

者・視聴者は今、メディアを変えるにために一緒に何がやれるか、真剣に話し合う必要がある。

〈　企　画　趣　旨　〉

　普天間基地の「県外・国外」移設を約束して政権に就いた鳩山首相に、多くの新聞・テレビは初めから「自民党政権の対米合意を守れ」　と叫んできました。大メディアほどその傾向が顕著です。そして、首相が約束を守ることに失敗、当初の名護・辺野古移設案に戻ると、　メディアは対米不信の増幅、関係地域住民への裏切りをなじり、首相を辞任に追い込み、この問題を政局の材料にする姿勢を、　いっそう露骨に示すことになりました。

　しかし、４月２５日の９万人が集まった沖縄県民大会と、これに呼応する本土の数多くの集会･デモは､「普天間問題」を生んだ、　「密約」に支えられた日米安保の暗部を白日の下にさらし、　敗戦後今日まで日本が甘んじてきた対米従属

の仕組みを全面的に見直すよう国民に促し、その勢いは、１１月のオバマ大統領訪日に向けて、 ますます強まっています。

　メディアは、日本の政治的針路の選択をめぐる意見では違いがあっても、このような情勢の見方や、 そこに伏在する問題の捉え方に関しては、認識は一致するはずです。であるならば、その根源的な部分、 日米安保の根本的な見直しについては率直に問題を提起し、そのうえで、これをどう変えるべきか、変えざるべきか、主張を開陳すべきです。 だが、大メディアほどそれをやらず、いきなり日米同盟の維持・深化を説くだけなのです。

　そうした思想的な、また論理的な不誠実さがまず、心ある読者・視聴者の不信を買っています。そのうえ、 民主党政権が自紙の主張に従わないと、政府の迷走や不首尾を首相に対する攻撃の材料とし、アメリカの大統領にバカにされた、

アメリカの新聞にもバカ呼ばわりされたなど、統治者に対する大衆の侮蔑を煽り、深刻な政治不信を招いています。

　信ずべきものに対して侮蔑と不信しか持ち得ないことをメディアによって教えられた人びとは、 そうした状況を変革できないメディアにも結局、不信を抱かざるを得ません。そうなるとメディアは、多くの人びとが巨大な情念の塊となって、 どっと一つの方向に動きだすとき、それを止められず、ただ迎合・追随するだけとなるおそれがあります。危ういかなと思います。 メディアとジャーナリズムの信頼の回復が急がれねばなりません。

　北海道新聞の高田昌幸さんは、北海道警察の裏金問題報道で数々の受賞に輝く現場記者です。権力監視が甘くなったクラブ取材、 過当な企業競争が助長する現場記者同士の不団結、社内の言論の自由・民主主義の衰退など、現場が陥って

いる困難を分析、 問題をどのように克服し、ジャーナリズムの信頼を高めていくか、検討を加えていただきます。

神奈川新聞の中村卓司編集局次長は現在、米軍基地を地元に抱えた長崎新聞、沖縄タイムスと共同で、連載企画報道「安保改定５０年　米軍基地の現場から」に取り組んでいます。在京大新聞はなぜこのような、 日米安保の見直しにしっかり取り組んだ報道ができないのでしょうか。そうした状況と安保・沖縄報道の問題点について、語ってもらいます。

武蔵大学教授の永田浩三さんは、ＮＨＫ在任中はドキュメンタリー番組の制作を手がけてきました。 政府の介入によって改変を蒙った従軍慰安婦問題を取り上げた番組では、チーフ・プロデューサーを務めました。それらの経験を踏まえ、プロのジャーナリストと市民との協力も視野に入れ、今後の取材報道のあり方について、提言をお願いします。

〈　構　成　と　進　行　〉

＜パネリスト＞

高田　昌幸さん : 北海道新聞運動部記者。０４年度の新聞協会賞・ ＪＣＪ賞など多数の賞を受賞した道警裏金問題の報道時は報道部次長として活躍。その後、ロンドン特派員などを経て現職。

中村　卓司さん : 神奈川新聞編集局次長。０５年、沖縄タイムスとの共同企画「米軍再編を追う」で指揮を執り、 今回は長崎を加えた合同企画「安保改定５０年　米軍基地の現場から」を統括。

永田　浩三さん : 武蔵大学社会学部メディア学科教授。ＮＨＫで「クローズアップ現代」「ＮＨＫスペシャル」 などのプロデューサーを務め、番組改変事件裁判ののち退職、０９年から現職。

コーディネーター 桂　敬一さん : マスコミ九条の会呼びかけ人。ジャーナリズム論、元東京大学教授。

＜進　行＞ 開会：１３時３０分～１３時４０分 マスコミ九条の会代表あいさつ。コーディネーター・進行説明

＜シンポジウム　第１部（１）プレゼンテーション　各２０分　計１時間＞ １３時４０分～１４時００分：高田昌幸さん メディア企業所属の記者たちが直面する問題を報告。社内の言論の自由、民主主義について提言をお願いする。 １４時００分～１４時２０分：中村卓司さん 日米安保をめぐる報道のどこに問題があるかを分析。アメリカとアジアの報道のあり方について考察する。 １４時２０分～１４時４０分：永田浩三さん 権力と市民の取材報道では何が重要な問題か、検討する。職業的なジャーナリストの今後の連帯の必要性を考える。

＜シンポジウム　第１部（２）　補足発言　計３０分＞ １４時４０分～１５時１０分：コーディネーターの質問に対して補足の発言。

＜休　憩　１５分＞ １５時１０分～１５時２５分：この間に参加者から質問用紙を回収、整理。

＜シンポジウム　第２部　討　論　　計２時間３５分＞ １５時２５分～１５時４０分： 第１部全体を振り返り、３人のパネリストから５分ずつ、重要と思う争点の提起と意見の開陳をお願いする。

１５時４０分～１６時３０分:パネリスト３氏に向けられた参加者の質問に対し、それぞれから回答をいただき、さらに討論をお願いする。

１６時３０分～１７時４５分:パネリスト間の自由な討論をお願いする。最後にそれぞれファイナル・コメントをしていただく。

１７時４５分～１８時００分：コーディネーターまとめ。インフォメーション。